

令和7年12月10日

報道機関各位

青森県立美術館

**大韓民国 済州道立美術館の主催により  
青森県立美術館との国際交流展「風と森の対話」が開催されます**

県と済州特別自治道は、両地域の友好交流・協力を促進するため、2011年には友好交流協定を、2016年には姉妹提携協定を締結し、これまで世界自然遺産や美術、マラソンなど幅広い分野にわたって交流を推進してきました。

今般、済州道立美術館の主催により、青森県立美術館との国際交流展「風と森の対話」が開催されますのでお知らせします。なお、開幕式の画像や動画を希望する場合はお知らせください。

記

**1 開幕式日時、次第**

令和7年12月15日（月）11:00

次第

・歓迎挨拶、祝辞、祝賀公演、記念撮影、展示観覧

主な出席者

- ・済州特別自治道 キム・エスク政務副知事
- ・済州特別自治道 道議会 イ・サンボン議長
- ・済州道立美術館 イ・ジョンフ館長
- ・在済州日本国総領事館 池田 洋一 総領事
- ・青森県知事 宮下 宗一郎（青森県立美術館 工藤副館長代理出席）

**2 会場、会期**

大韓民国 済州道立美術館（済州市）

令和7年12月16日から令和8年3月15日まで

**3 企画展概要**

展覧会名：国際交流展《風と森の対話》

展示内容：青森県と済州が共有する現代美術の接点を探索し、「時を抱く島」済州と「北の森」青森それぞれの風景と歴史の中から、新たな同質性と繋がりの可能性を探る展示会（詳細は別添リーフレットのとおりに）

作品数：済州市および青森県の代表作家による作品 計125点

参考：青森県立美術館からの出品作品（作家11名、63点）

奈良美智、佐野ぬい、工藤哲巳：本県を代表する現代美術作家の作品

棟方志功：青森の信仰や自然イメージ、豊かな女性や女神を描いた作品

小島一郎：戦後の農村や人々の生活をとらえた写真作品

小野忠明：高句麗壁画や青森の縄文文化など考古学的なイメージを融合させた版画作品など。

報道機関用提出資料（連絡先）

担当

青森県立美術館 経営管理課  
石山、沼田

電話番号

017-783-5240

所属長

青森県立美術館  
副館長 工藤 泰正

はじめに

風は常に動き、境界を越えてゆく。目には見えなくとも、すべてのものに触れ、その痕跡を残す。一方、森は大きくとも、下ろし、時を刻く。木々のあいだに、風はひととと身を寄せ、森は風を受けて新たな生命を育む。済州の風と青森の森は、異なる自然環境の中で生み出された、どこが似通っている。森が湛える北沢の記憶は、風が囁くやす風の時刻と。それらの地に生きる人々と芸術の中に断行つアイデアンティティを語る。本展＜風と森の対話＞は、済州と青森、両地域に根ざす芸術家たちがそれぞれの場所で作ってきた記憶と地点をひとつの「対話」として新しいいくものである。彼らの作品は、自然の言語を媒介として地域の記憶と現在、そして世界との関係を思考する。「真なり」を通じて流出される共感の芸術である。済州の風が青森の森に湧け込み、森の息吹が海を越えて再び済州の空に漂ってきいた時、私たちは芸術のもつ「つなぐ力」を目の当たりにするだろう。＜風と森の対話＞はひとつの自然、ひとつの世界を新たに思い描く試みである。本展を通して観覧者自身もまた、その対話の中に身を置きながら自らの風と森を見つけてもらいたい。

張利陽記念館

Section 1

2025年は日韓国交正常化60周年を迎える節目の年であり、2016年には済州特別自治道と青森県が姉妹提携協定を結んで10年を迎えます。このようなタイミングで開催される本交流展は、単に両地域の作品を並置して紹介する場ではなく、異なる自然環境や歴史、文化の中で共通の感覚を見出し、芸術という言語による対話を目指すものです。

SECTION 1では、青森出身の芸術家と韓国の芸術家の両方をつなぎ、互いに共鳴し合った恒例展として、20世紀前半、日本の近代芸術は、西洋美術の受容と伝統木版画の復興期を通じて独自の美学を生み出しました。その中心にいたのが、小野田明と柳井彦次郎です。彼らの作品世界は、平城を拠点に活動していた美術団体「環翠会」を通じて、雑誌林(チェ・ヨングラム)や雑誌刊(チャングリソク)をはじめとする韓国の作家たちに影響を与えました。さらにこの出会いは、異なる文化が芸術を紹介して共鳴し合った日韓近代美術における重要な交差点となりました。



小野田明、風と森  
年代不明(1950年代前半)、紙・6号、41.0x57.0cm



張利陽(チョ・リョウ)、動物  
1972、キャンバス・5号4号、63.5x47.2cm



柳井彦次郎(ユヰ・ヘンシ)、静  
1951、紙・A様、二冊一冊並立、40.0x28.5cm(各)、計72.1x122.5cm



張利陽(チョ・リョウ)、鳥  
1957、キャンバス・3号3号、45.2x27.5cm

企画展示室 1 (1F)

Section 2

北と南の境界でうまれた芸術たち

済州と青森は地理的には遠く離れていますが、意外にも多くの共通点があります。青森は日本を代表するリソの産地であり、済州は韓語を代表するミカンの産地です。各地の農産物は異なる気候や土壌のもとで育まれてきましたが、人々の暮らしを豊かにし、共同体文化を形づくってきたという点で、重なり合う風景を描き出します。

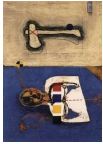
両地域は中世から遠く離れた「辺境」であることも共通しています。それは孤立や遠方を意味するのではなく、むしろ独自の伝承を守り、個性的な文化を育む土壌となりました。さらに海を介して世界と繋がる夏所であったという点において、済州と青森の辺境性は、開かれた交流の歴史と深く結びついています。

太古から海の端は人や物の往來を促してきましたが、今日では文化と芸術を結ぶ架け橋となっています。本展＜風と森＞は「海を越え、島」済州と「北の森」、青森が、それぞれ異なる自然環境や歴史背景の中で新たな同質性を見出す過程を示します。

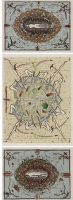
済州の作家



張利陽(チョ・リョウ)、静  
1992、キャンバス・7号7号、72.1x101.0cm



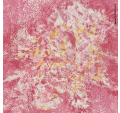
張利陽(チョ・リョウ)、人ー静  
1990、3号3号・3号3号・3号3号、75.4x106.2cm



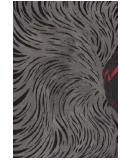
張利陽(チョ・リョウ)、静  
1994、紙・A様、48.0x191.0cm



張利陽(チョ・リョウ)、静  
2005、キャンバス・3号3号、61.5x61.5cm



張利陽(チョ・リョウ)、静  
2006、紙・A様、160.0x140.0cm



張利陽(チョ・リョウ)、静  
2006、キャンバス・3号3号、200.0x300.0cm

済州の作家



張利陽(チョ・リョウ)、静  
1976、紙・多分A様、45.0x22.0cm



張利陽(チョ・リョウ)、静  
年代不明、ガラス・A様・A様、92.0x92.0x4.0cm



張利陽(チョ・リョウ)、静  
1984、キャンバス・3号3号、100.0x222.0cm



張利陽(チョ・リョウ)、静  
1982、キャンバス・3号3号、60.0x207.0cm



張利陽(チョ・リョウ)、静  
1980、紙・多分A様、52.4x45.0cm



張利陽(チョ・リョウ)、静  
1991、キャンバス・3号3号、72.5x91.0cm

済州 ― 青森

済州特別自治道10周年記念

青森県立美術館

国際交流館

바람과 숲의 대화  
風と森の対話

DIAGUE OF  
WIND AND FOREST

2025. 12. 16 ~ 2026. 03. 15

青森県立美術館 企画展第12  
国際交流館 企画展第12

開催期間	午前10時~午後5時 (7~9月: 午前10時~午後8時)
入場時間	午前10時から観覧開始までの30分前まで
休館日	1月1日、ソルナリ(祝日)、チュンク(休日)、観望日(祝日)
観覧料	大人 (12歳以上) 5,000ウォン 個人 1,000ウォン / 団体 1,400ウォン 青少年・老人 (13~24歳、65歳以上) 観望を利用した下士(以下)の老人) 個人 1,000ウォン / 団体 1,000ウォン 子ども (7~12歳) 個人 600ウォン / 団体 300ウォン
TEL	033-251-1111

済州特別自治道

www.jeju.go.kr

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

033-251-1111

企画展示室1 (1F)

## Section 3

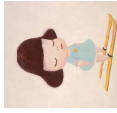
奈良美智と済州の女性作家たち：  
顔、そして顔—生きている肖像

SECTION 3 では、青森出身の世界的作家、奈良美智と清洲出身の作家であるアン・ソビ、ヤン・ジョンムの作品を通して「人物」を媒介とした同一時代の感情を読み解きます。三人の作家が描く人物は、単純な肖像画ではなく、自らが生きている時代や社会、そして内面の感情を映し出す鏡としての表現です。

奈良聖智の親子と子どもたちから、純真さや喜び、平和と希望が伝わる現代人の精神のうしろ姿、そのなかには日本人の現代生活の多くの不安や懸念がたまえており、その感情の深さを観た人々の共感をうけています。

アフリカとマヤ・ジョージンソンの描く人物像は、清純の自然日光浴、そして女性的な感覚を背景としています。彼女たちは高貴な人々です。その画面には記憶、感動、そして回復の節制の場にもなっている。それはまさに聖智宗派を主とする個人の声が象徴した画面であると見えます。

本セクションでは、青森と清州という異なる地域の作家たちが、人物画という共通言語を介して郷土の深さと人間の普遍性について語り合います。国や地域の境界を越えて、時代と感性が交わった時、そこに描かれた人物はもはや誰かひとりの顔ではなく、私たち皆の顔となるでしょう。



奈良美智, *So far apart*  
1996, コットン・アクリル,  
120.0x110.1cm  
©Yoshitomo Nara



アン・ソヒ, Loose button  
2023, キャンバス・油彩  
100.0×65.1cm



ヤン・ジョンイム、自我像  
2021、紺紙・墨、ガッシユ、90.9×72.7cm

## 企画展示室 1 (1F)

## Section 4

両地域の創作者たちの未来と時間の種

SECTION 4 では、青森と濱州出身の現代美術の若手作家たちを通じて、異文化における芸術の未来を共に見つめます。異なる環境や文化の中で成長してきた作家たちですが、彼らの作品には今も生きている世代の感情、社会の感受性、そして芸術を通して世界を見つめる新たな視点という共通項があります。

上海に生まれ育ち、青森で育った潘逸舟は、社会と個人の間に引かれる境界線について韓国を取り囲む海を起点を思案し、イ・ジュとアジとジョンは片津島のアイデンティティとグローバルな感覚を結びつけ、独自の表現言語を築き上げています。

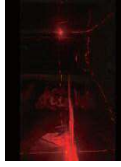
本セクションでは、このような個性豊かな視点が会出うことで、地域の境界を越えた芸術的な共鳴が生まれます。青森と涪州、二つの地域の若手作家が描き出す今日の芸術は、東アジア現代美術の明日を照らす光となるでしょう。



遷移母、故を耕す  
2024, シンダルチヤンネルビデオ



イ・ジユ, 覆らない道  
2017, 底・氷影, シンダグルチャンネルビデオ



ブ・ジヒョン, Ultimate Space  
2020, シングルチャンネルビデオ, 6分19秒

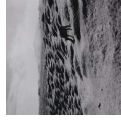
企画展示室 2<sup>(2F)</sup>

## Section 5

写真家がとらえた青森と  
記憶の風景：

[illegible]

小島一郎、つがる市稲垣付近  
1960(2012年のモダンプリント)、  
セラチン・シルバー・プリント、50.0×32.5cm



高菜—(コ・ヨンイル)、戦争孤児の朝鮮墓地  
1961, モノクロプリント, 50.0x50.0cm



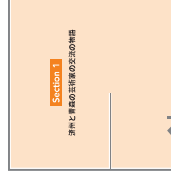
北井一夫、恐山(撮影地: 北海道)  
1970(1988年の王ダンプリント)、ゼラチン・  
シルバー・プリント、15.5x23.0cm



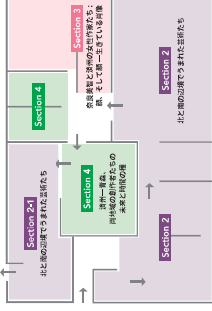
金秀男(キム・スナム), 清州島 燃燈クツ  
1982, Archival Pigment Print, 90.0x136.

## Exhibition Map

張利錫  
紀念館



1F / 企画展示室



## 2F / 企圖展示室2

